

藤沢

2016年3月1日

第262号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・川名自然フォーラム 10 周年記念誌発行
- ・生ゴミ堆肥で家庭菜園 ・乳菌の保存を
- ・「私の終わらない旅」・放射線測定値
- ・BSL4(P4)施設稼働で新たな動き

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

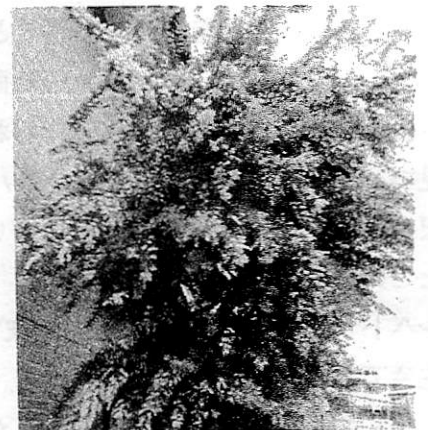
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

『宮城・福島に通ってかるた』

(東日本大震災から5年。藤沢から福島・宮城にずっと通い詰め、毎月1,2回以上は訪れ「遠距離恋愛とも言える気持ち」という作者がつづったカルタを紹介します。)

- 【い】 きていく我も誰かのどこでもドア……………現場を伝えて人の世界を広げたい
- 【ろ】 うどうが命がけなのは昔から……………いわきは炭鉱の町でもあった
- 【は】 るかなる人に届かず燈台に……………今は帰らぬ人にも故郷はあると伝えたい
- 【に】 て見えて一人ひとは違う人……………ひとくくりの「福島」なんてない
- 【ほ】 う射線わからず住んでるわけじゃない……………理解して暮らす術を作り出す
- 【へ】 いせいに暮らせる街を守りたい……………そのときだけの取材は困るよね
- 【と】 りあえず一度来てみて地続きだよ……………他人の情報だけで判断しないで
- 【ち】 からある人もない人もそれなりに……………探せばできることあるよ被災地
- 【り】 かいして心も開いて見聞きして……………先入観で目を曇らせないで見てね
- 【ぬ】 かにくぎでないと信じつ人に語り続く……………“作業員”と呼ばれても
- 【ル】 ートごと、それぞれの出会い楽しんで……………お気に入りの街できました
- 【を】 なのか「が」なのか、主役は誰なのか……………支援は脇役と心得る
- 【わ】 きかえる緑はナウシカの森か……………汚染を浄化する“腐海”の森に見えて
- 【か】 える人帰らない人どの選択も支えよう……………どれもがその人なりの正解
- 【よ】 く聞いてよく考えて話したい……………拙速は人を傷つける事がある
- 【た】 くさんの「だけど」を飲み込んで笑顔……………語らないことは尋ねない
- 【れ】 んめんと続いた文化思い出す……………失って初めて気づくこともある故郷
- 【そ】 の街はすべて汚れたと呼ばれ
……………“瓦礫”処理して乗り越えてます東北
- 【つ】 くっても作ってもコミュニティ壊されて
……………何度避難を繰り返したかと
- 【ね】 ていても今も夢に見ると語る人
……………5年でやっと口に出せたという人も
- 【な】 るならぬ やってみなけりゃわからない……………人類初めての挑戦だと
- 【ら】 くでない 農業なんていつもそう
……………昔から困難を乗り越えたと笑う人
- 【む】 だじゃない きっとあとに続く道
……………白い目で見られることを恐れない (杉山百合子)



黄色に咲いたミモザの花 円行で

映画「私の終わらない旅」とトーク

「ピースリレー・ふじさわ」の主催で 2/21 に映画が上映された。

2011 年 3. 11、震災テレビから目が離せない中、13 年前に亡くなった母の形見のガリ版刷りのミニコミ誌をまとめた「聞いてください」の手紙を紹介している。この母、坂田静子さんは反原発の運動にかかわり 1977 年から 15 年間、「子どもたちのために、まだ生まれていない未来の子どもたちのために」と街頭などで「聞いてください」を配り運動した。

次女である坂田雅子監督はそんな母の姿を見て育った。姉は、英仏海峡のガーンジー島に住み、対岸にあるフランスのラ・アーグには、原子力発電のプルトニウムを取り出す再処理工場があり被害を知った。

監督は姉とともにラ・アーグのことを調べた。反原発市民活動家のディディエ・アンジェさんは「放射性物質や化学物質を含む液体廃棄物は、水路から海に流れ込み 8 の字を描いて英仏海峡の島々に行くんです。その後、海峡を北西に向かいデンマークやノルウェー沖でも探知されています」と。静子さんが集めた資料の中に 1976 年に作られた映画「ラ・アーグ再処理工場」を見つけた。この映画では施設のこと、監督やプロデューサーの話、さらに労働組合の代表などの言葉が述べられていた。

夫は、マーシャル諸島、ビキニ島、旧ソ連のセミパラチンスク核実験場などを取材、水爆実験プラボーのことや、カザフスタン（ウラン鉱山の国）における核実験の被害も取材、まさに家族で作り上げた映画だ。

広島。長崎。第五福竜丸。そして福島。4 度被爆を体験した日本「私たちはどうしてここまでしてしまったのだろう？」と監督は核の時代とその未来を問う旅に出るというドキュメンタリー映画であった。

坂田監督のトークは対談で行われ、身近な問題から見つめたい、福島原発事故はハラハラした思いでいた。どうしたらよいか？ 何が起きているか？ 知りたいとこの映画を作り始めた。ほかに「花はどこへ行った～ベトナム戦争の事を知っていますか」「沈黙の春を生きて」の監督をしている。

たくさんの知りたいことが少しでも知ることが出

来た映画とトークであった。機会があったらぜひ観ていただきたい映画である。（日比遥）

生ゴミ堆肥化で野菜栽培

6 年前から家庭から出る生ゴミ堆肥化を始めたが、一昨年から藤沢市の市民農園を借りることが出来た。それまでは出来た生ゴミ堆肥は、もっぱら庭の植木や花、プランターの肥料として使っていたが、使い切れなくて活用に困っていた。

家庭から出る生ゴミ堆肥は有機肥料なので家庭菜園に最適。生育も良いし味も抜群。

写真のように立派な「長いも」もできた。この外 2 年間で栽培した野菜は「トマト」「キュウリ」「ナス」「白菜」「キャベツ」「ネギ」「大根」「小松菜」「チンゲン菜」「ほうれん草」「トウモロコシ」「枝豆」「ピーマン」「コロタンメロン」などなど。市販の化学肥料などは一切使わずわが家で作った生ゴミ堆肥だけで栽培した。何と言っても有機肥料なので味の良い野菜ができ家族からも喜ばれている。藤沢市では市民に数多くの市民農園を貸し出しているの皆さんも「生ゴミ堆肥化」セットで初めて見ませんか。（生ゴミ堆肥化の進め方はエコネットニュース 249 号に紹介してありますが、詳しく知りたい方はパンフレットもありますので筆者まで連絡下さい）（小林麻須男）



立派にできた長いも

「川名自然フォーラムが活動 10周年記念誌を発行」

藤沢市南部に唯一残された「川名清水谷戸」は、JR藤沢駅から徒歩15分程度の位置にあり、昔ながらの豊かな自然環境が残されています。

川名自然フォーラムは、平成16年からこの川名清水谷戸の貴重な自然を次世代に引き継ぎたいとの思いで、自然環境保全や生物多様性維持の活動を実施して来ましたが、地権者、耕作者、地域住民、行政と様々な形の意見交換を行いながら、市民向けの生物多様性の理解のための講演会や野外観察会開催などを通して、環境意識の啓発に取り組んでいます。さらに平成23年からは自然環境条把握のため気温・水温・地温の継続的な測定を続けており、今後の環境保全活動に生かすべく、データの蓄積に努めています。

今回、活動10周年記念事業として「川名清水谷戸の自然」という48ページのブックレットを発行しました。その目的として「より多くの人に川名清水谷戸の自然を知ってもらう」「川名清水谷戸の自然をまもるために必要なこと」の理解を深めてもらう」「存在するいろいろな考えが合意を得るにあたっての一資料にしてもらう」の3つをあげています。

構成は5章に分け、「川名清水谷戸への道の紹介」「豊かな自然と多様な植物・動物の紹介」「保全に関する状況」「自然環境保全活動のまとめ」をそれぞれの執筆者が担当し、最後に個人的な「川名清水谷戸への想い」を寄せています。最後に講演会・自然観察会の実施一覧表が付表として添付され、川名自然フォーラムの10年間の活動がこの一冊に凝縮されています。

ご興味のある方は事務局までご連絡ください。なおこの10年間の活動に対し、今年2月に地球環境保全活動部門で「平成27年度かながわ地球環境賞」を受賞しました。（川名自然フォーラム事務局：

090-4246-0951 20時～22時）



BSL4(P4)施設の稼働で新たな動き!!

バイオハザード予防市民センター・日本消費者連盟・遺伝子組換え食品いらない！キャンペーン・DNA問題研究会の共催で「新たなバイオハザードの危険性」と題するシンポジウムが東京で開催された。

「レベル4施設（武蔵村山市の国立感染研施設、長崎大学）で何がおこなわれるのか」と「遺伝子組換えの新たな動き」と題する2部構成であった。

ここでは、「第一部のレベル4施設」に関連する部分に焦点を当てる。

昨年来のデング熱国内発生やデボラ出血熱ウイルス感染疑いの患者の上陸で、一段と国内での発症が騒がれたが幸いにも陰性との診断結果でことなきを得た。この折、感染が疑われた患者の検体が感染研村山庁舎へ運ばれ検査がおこなわれたと報道された。この村山庁舎にBSL4レベル（P4）に対応する施設が設置されたのはもう数十年前であった。しかし、その病原体の危険性から周辺住民の反対もあり、当該の自治体も厳しく対応し、実稼働はおこなわれたことはなかった。事が起きたときにBSL3（P3）の設備を拡充して検査をおこなってきたようだ。今回もこのケースであったと推測される。従って当面の検査体制は確保できているといえるでしょう。

しかし、疫病の予防・治療に対する国際貢献や流行阻止に対してより迅速な対応等のためと称し、厚労省や研究者はBSL4施設の稼働を強く望み、ついに当該自治体の武蔵村山市長は塩崎厚労相との間で感染研村山庁舎のBSL4施設稼働に関し昨年8月に合意に達し、稼働が可能になった。地元市議は、住民の十分な了承は得られていないといっている。さらにこの度、従来からBSL4施設設置・稼働を強く希望していた長崎大学の件を議論する「協議会」を設置することを政府が決めたとのニュースが飛び込んできた。協議会は文科省・厚労省・長崎県・長崎大・地元自治体などが参加、内閣官房が所管。長崎大の設置には地元住民に反対の動きがある。人口密集地での施設設置、さらに稼働は避けるべきであるとWHOも指針で述べている。

BSL4施設稼働の管理体制に対する国内の法的な整備が早急にすすめられることが要求される。一方、予防市民センターを中心に、法的整備の促進を訴えて、全国規模のネットワークを構築する動きも出てきている。（武田問題対策連絡会 共同代表 福岡秀治）

「乳歯保存ネットワーク」について

昨年 2015 年から「乳歯保存ネットワーク」が活動を開始しています。子どもたちの乳歯を保存しておいて、国内でストロンチウムを計測できるようにしようという長期的な活動です。

核実験当時、日本の子どもたちの乳歯からストロンチウムが検出されていました。放射性物質の放出が一番多かった翌年生まれのお子さんの乳歯からは、最大値が出ています。ミルクで育ったお子さんの歯が一番汚染されており、次がミルクと母乳の混合栄養のお子さんでした。

今回の東電福島原発事故により、家畜の乳歯は調査されており、その結果も発表されているのですが、ヒトの乳歯の調査結果はまだ発表されていません。

家畜の乳歯のストロンチウムはセシウムと同じ程度検出されています。ときにはセシウムよりストロンチウムの値が高かったりしています。

原発事故の後、母乳からセシウムが検出されていました。原発事故当時、胎児だったお子さんや乳児だったお子さんが一番心配になります。もちろん、当時幼児だったお子さんも心配です。

被ばくの証拠となる乳歯の保存と測定は、子どもたちを守るために大人達がしておく必要があります。全国のお子さん達の乳歯が必要です。市民による乳歯保存と測定は、みなさまのご協力がなくてはできないことです。

「乳歯保存」のセットなどを配布して資金も集めておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

「乳歯保存ネットワーク」呼びかけ人：すどうゆりこ

放射能測定値

(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

2月中に測ってみました

秋葉台体育センター前歩道	5cm	0.059
〃	50cm	0.067
円行公園梅林芝生	50cm	0.039
〃 梅の木の下	50cm	0.041
慶応大学前歩道	50cm	0.049

ECNET INFORMATION

大行進 NO NUKES DAY 原発のない未来へ

3月26日(土) 代々木公園 11:00-14:40

(主催 さようなら原発 1000 万アクション/原発をなくす全国連絡会/首都圏反原発連合/反原発運動全国連絡会)

「日本と原発 4年後」上映

2/27(土) ~ 3/11(金) 17:00-19:20

前売り 1500 円 当日 1800 円

横浜シネマリン(☎045-341-3180)



アースデイ大船観音

アースデイとは 地球環境や平和や人権、

持続可能な社会について考える日として 1970 年に提唱された記念日です

3月20日(日) 10:00-20:00 大船観音にて

入場料 300 円 もぐもぐブース、青空ごさ市など数々のイベントがあります

主催 イマジンさがみONE 0466-82-1702

藤沢エコネットから

◆訂正とお詫び 前 261 号の 2 ページアンケート結果 A2、子どもの放射能健康被害取り組みについて、鈴木とも子氏の回答を①甲状腺など健康調査が必要、に訂正。4 ページ右段糸永研究室を糸長研究室に訂正

◆会員募集=年会費・購読料→3000 円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 万ザエコネット

◆事務局会議 3月10日(水) 16:00~

市民活動推進センター

《編集後記》2月14日、市長選挙が行われ、現職の鈴木恒夫氏が再選された。春一番が直撃し嵐となったせいか投票率は 27.8%だった。過去に 22%の時もあったそうで、史上 2 番目に低い投票率ときく。大切な市の税金の使い方をどうするのかと政策の責任が市長には課せられる。339,296 人の有権者は投票した人以外は関心もなくオマカセでいいのだろうか？ 全国では、貧困層が増加し格差が広がっている中で先ず福祉や教育、暮らしに暖かい施策をして欲しい。(H)